

週間マーケット展望（5月20日～5月24日） 2024年 第20号

ドル/円（始値 155.74 高値 156.74 安値 153.60 終値 155.66）

5/13の155円74銭から取引を開始し日銀による国債買い入れオペの買い入れ減額を受けた155円52銭を安値にNY連銀による4月期待インフレ率の上昇を受けて156円25銭へ反発。また、5/14発表の米4月卸売物価指数が市場予想を上回ったことから156円74銭へ上昇したものの、前月分が下方修正されたことに続き、5/15の米4月消費者物価指数や4月小売売上高を受けてインフレに対する過度の警戒感が薄れたことから154円70銭へ下落。こうした流れを受けた5/16の東京市場では153円60銭まで下落したものの、ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁が早期利下げに慎重な姿勢を示したことに加え、NY株式市場では主要3指数が揃って市場最高値を更新したリスク選好とともに155円54銭へ反発。こうした中、5/17には155円台半ば付近を中心に底堅い値動きを続け、米長期金利の上昇に伴い155円98銭まで上昇。クロス円の堅調な値動きにもサポートされ155円66銭で取引を終えました。

5/21には日銀が非伝統的な金融政策を振り返る「過去25年間の経済・物価情勢と金融政策」をテーマに「多角的レビュー」に関するワークショップを開催。この中で今後の追加利上げについて言及する可能性や予想以上にタカ派的内容となるか注目。一方、5/22には政策金利を据え置いたほか、バランスシートの縮小ペースを落とした5月のFOMC議事要旨が公表され、その議論の詳細に対する反応も注目されます。加えて、5/23からのG7財務相・中央銀行総裁会議があり、本邦通貨当局による円買い介入に不快感を示したイエレン米財務長官をはじめ植田日銀総裁や鈴木財務相の発言次第では荒っぽい値動きになる可能性もあるかもしれません。また、今週は5/24のミシガン大5月消費者信頼感指数/期待インフレ率（改定値）のほか、為替市場に影響を及ぼす目立った指標もない中、引き続き複数のFRB要人による発言が連日予定されているため、こうした発言も合わせて5/1の高値（157円99銭）を上抜けるか、5/16の安値（153円60銭）を下抜けるか注目されます。

153.50 ~ 158.50

ユーロ/円（始値 167.69/1.0767 高値 169.40/1.0895 安値 167.33/1.0766 終値 169.21/1.0870）

ユーロドルは5/13の1.0766ドルを安値に①複数のECB高官による6月利下げ開始を容認する発言の一方、それ以降に関しては慎重な見解が示されたこと ②5/14-15の米PPIやCPIを受けて米国のインフレに対する過度な警戒が緩和され米長期金利が低下したこと ③NY連銀製造業景気指数や小売売上高など米経済指標の下振れが相次いだことなどを背景に3/16には3/21以来の1.0895ドルまで上昇。しかし、1.0900ドルを前に伸び悩む中、再び米長期金利が上昇したことから5/17には1.0836ドルへ反落し1.0870ドルで取引を終えました。一方、ユーロ円は5/13の167円台半ばを安値に5/14の米PPIを受けたドル円の上昇に伴い169円36銭まで反発した流れを受けた5/15の東京市場で169円40銭へ上昇。その後、5/15の米CPIや小売売上高を受けて円買いが優勢な流れとともに5/16には167円33銭へ下落したものの、その後のドル円の155円台後半への反発に加え、NY株式市場の上昇を背景にしたリスク選好を好感し5/17には169円30銭まで上昇し169円21銭で取引を終えました。

今年に入って以降の求人賃金上昇率が鈍化傾向を示す中、5/23 に発表されるユーロ圏1-3 月期妥結賃金に対する反応が注目されます。既に市場は6月の利下げ開始を織り込んでいるため、サプライズがない限り下値も限られると見られます。先週5/14 に発表されたドイツ5月ZEW 景況指数は2022年2月以来の水準を回復するなどドイツ経済の持ち直しを示唆。こうした中、5/23 発表のドイツやユーロ圏5月製造業/サービス業PMI（速報値）や、ユーロ圏5月消費者信頼感指数を受けてユーロドルが5/16の1.0895ドルや節目の1.0900ドルを上抜けるか注目されます。一方、ユーロ円は5/21の日銀によるこれまでの金融政策に対する「多角的レビュー」や5/23からのG7での日米財務相らによる発言などを受けたドル円の反応とともにユーロドルが1.0790ドル近辺に位置する200日移動平均線を下値支持線として1.0900ドルを上抜けるか対ドルでの動向と合わせ、4/29の高値（171円56銭）を上抜けるか注目されます。

167.00 ~ 172.00

ポンド/円 (始値 195.03/1.2523 高値 197.86/1.2712 安値 194.75/1.2510 終値 197.72/1.2701)

ECBの6月利下げ開始に対し、英中銀は6月に政策委員会で8月に利下げ開始を示唆すると見られ、こうした違いを背景に対ユーロでのポンド買いにサポートされ対ドルで1.25ドル台を固める底堅さを継続。さらに、5/14-15の米PPIやCPIを受けたFRBの過度なインフレ警戒感が緩和されたことから5/16には1.2687ドルへ上昇。その後も5/16の1.2643ドルまでの反落に留まり、5/17にはユーロが対ポンドで5/3以来の0.8555ポンドまで下落したポンド買いとともに対ドルで3/21以来の1.2712ドルへ上昇し1.2701ドルで取引を終えました。一方、ポンド円は5/13の194円75銭を安値に対ドルでの堅調地合いにサポートされ5/14にドル円が156円74銭まで上昇したことに伴い197円06銭まで反発。その後、5/16の東京市場でドル円が153円60銭まで下落した円全面高の中、195円05銭へ反落したものの、5/17にかけてドル円が155円台後半へ反発したほか、ポンドが対ドル、対ユーロで一段高となったことにサポートされ197円86銭まで上昇し197円72銭で取引を終えました。

5/21の英中銀ベイリー総裁の講演に続く5/22発表の英4月消費者物価指数を受けて、市場が見込む英中銀の8月利下げ開始を確実なものにするか、6月利下げ開始への前倒し、もしくは9月以降にずれ込むとの観測が高まるか注目されます。そのほか、5/22に公表される5月のFOMC議事要旨に対する反応に加え、5/23に発表されるユーロ圏1-3月期妥結賃金に対する対ユーロでの反応がポンドドルの方向性に大きく影響を及ぼすと見られます。先週末に日足・雲の上限を上抜けたことからその水準を下値支持線として3/21以来の1.2800ドル台へ一段高となるか、あるいは雲の上限を下回り、これまでの上昇に一服感が見られるか再び1.2600ドル割れへと下落に転じるか注目されます。また、ポンド円は5/23からのG7で日米財務相による本邦通貨当局による円買い介入の是非についての発言次第ではドル円が大きく上下に振れる可能性も含め、ドル円の動向と合わせて4/29以来の200円台回復となるか注目されます。

195.00 ~ 200.00

豪ドル/円 (始値 102.90 高値 104.30 安値 102.61 終値 104.19)

5/13の102円61銭を安値に①5/14-15発表の米4月PPIやCPIを受けてインフレ高進に対するFRBの過度な警戒感が後退したことを受けて5/16に対ドルで1/12以来の0.6714ドルま

で上昇したこと ②5/15-16に発表された豪1-3月期賃金物価指数や豪4月雇用統計がいずれも市場予想を下回ったものの豪中銀が現状の4.35%の政策金利を今年11月据え置くとの見通しに変更はなく、ECBの6月利下げ開始や英中銀の8月、さらにはFRBの9月利下げ開始よりも後ずれすると見られ対欧米通貨での堅調にサポートされたこと ③現状維持が見込まれる5/22のNZ中銀政策委員会でタカ派寄りの見解が示されるとの観測とともに5/17にNZ円が4/29に付けた2007年7月以来の95円37銭を上回る95円57銭まで上昇したことなどを材料に4/29以来の104円30銭へ上昇し104円19銭で取引を終えました。

今週は①5/21に公表される5/7開催の豪中銀政策理事会議事要旨や5月消費者信頼感指数に対する反応 ②5/22のNZ中銀政策委員会を受けたNZ円の動向 ③5/21の日銀によるこれまでの金融政策に対する「多角的レビュー」や5/23からのG7での日米財務相らによる発言などに対するドル円の反応などが豪ドル円の行方に大きく影響を及ぼす材料と見られるだけに注目。こうした中、4/29の104円94銭を上抜け心理的節目とされる105円台へ一段高となるか、あるいは5/16の102円81銭を下回ることになるか上値/下値メドとして注目されます。

102.50 ~ 105.50

南アフリカ・ランド/円 (始値 8.45 高値 8.58 安値 8.41 終値 8.58)

5/13の8円42銭を安値に米長期金利の低下を受けてランドが対ドルで1/2以来の18.29ランドまで上昇したことにサポートされ8円52銭へ反発。しかし、5/14発表の1-3月期失業率が32.9%と前四半期の32.1%から悪化したほか、3月鉱物生産量が前年比-5.8%と市場予想を下回ったことが上値を抑制。また、5/15発表の3月小売売上高が市場予想を上回ったものの、5/14-15の米PPIやCPIを受けてドル円が下落。さらに5/16の東京市場ではドル円が153円60銭まで下落したことに伴い8円41銭へ反落。しかし、5/17にドル円が155円台後半へ反発したほか、南アの主要産品である金/プラチナ先物価格が週を通じて上昇したことから2022年6月以来の8円58銭まで上昇して取引を終えました。

今週は①5/29に実施される総選挙が近づく中、ラマポーザ大統領率いる与党ANCの過半数割れが見込まれ、連立相手次第では政局不透明感が高まる可能性がランドにどの程度影響を及ぼすか ②5/22発表の4月消費者物価指数を受けて5/30の南ア中銀政策委員会での利下げ観測が高まるか ③南ア主要産品の金/プラチナ先物価格の上昇基調が続くかなどを焦点に2022年6月の高値(8円81銭)を上抜け、2018年4月以来の9円台を目指すことになるか、あるいは総選挙を前に調整売りに押され対ドルでの下落とともにランド円の上昇にも一服感が見られるか注目されます。こうした中で5/16の8円41銭を下回ればこれまでの上昇の起点となった5/3の8円22銭を目指して調整が進む可能性もあり、5/23からのG7財務相・中央銀行総裁会議での日米財務相らによる発言などに対するドル円の動向と合わせて注目されます。

8.30 ~ 8.80

提供:SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡、または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断は、お客様ご自身でお願いします。